

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人宮崎県立芸術劇場	
施 設 名	宮崎県立芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内 定 額 (総 額)	28,625	(千円)
	公 演 事 業	22,683 (千円)
	人 材 養 成 事 業	5,942 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ひなたのバロック	10月9日、2月23日	出演／(#1)大塚直哉、林綾野 (#2)大塚直哉、三ヶ尻正、桐山建志、 佐藤裕希恵、戸高美穂	目標値	500
		イベントホール、演劇ホール		実績値	293
2	おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part. 13/Part. 14	6月19日、※	(Part. 13)出演／黒木奈津季、大西映光、衛藤和洋、伊豆謡子、他 (Part. 14)コロナにより翌年度延期	目標値	1,440
		アイザックスターホール		実績値	329 ※
3	BLUE NOTE TOKYO ALL-STAR JAZZ ORCHESTRA	11月6日	出演／エリック・ミヤシロ、庵原良司、西村浩二、中川英二郎、宮本貴奈、川村竜、川口千里、他	目標値	630
		演劇ホール		実績値	742
4	こどももおとなも劇場#6 人形劇団ブーク『エルマ一のぼうけん』	11月26日～28日	出演／人形劇団ブーク 10名 脚色／川尻泰司、演出／柴崎喜彦 美術：マイヤ・ペトローヴァ、他	目標値	1,200
		演劇ホール、門川町総合文化会館大ホール		実績値	922
5	OBSESSION	12月11日	出演／OBSESSIONN (ピアノ：三船優子、ドラム：堀越彰)、曲目／ポロディン：ダットン人の踊り、他	目標値	220
		イベントホール		実績値	163
6	イザベル・ファウスト&イル・ジャルディーノ・アルモニコ		新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	1,088
				実績値	— ※
7	「新 かぼちゃといもがら物語」#6	3月2日～6日	演目／「火球」、作／桑原裕子、演出／立山ひろみ、出演／藤野友也、浜田信也、菊池佳南、森崎健康、他	目標値	675
		イベントホール		実績値	527
8	パイプオルガン プロムナード・コンサート「オルブラ」	6/5、12/18、3/5	出演／(vol.168) 長田真実、(vol.169) 加藤麻衣子、(vol.170) 大平健介、(共通) 伊豆謡子、他	目標値	600
		アイザックスターホール		実績値	553
9	小曾根真 60th BIRTHDAY SOLO 「OZONE60」 CLASSIC×JAZZ	5月3日	出演／小曾根真、曲目／小曾根真：ザ・パズル、誰かのために、ラヴェル：ピアノ協奏曲ト長調 2楽章、他	目標値	500
		アイザックスターホール		実績値	700

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	パイプオルガン・チェンバロ講習会 2021	4/9-11、7/23-25、 10/1-3、2/11-13	講師／大塚直哉、カリキュラム／①入門コース、②初級コース、③上級コース、④初級修了生プログラム	目標値	260人
		アイザックスターンホール		実績値	参加者 27
2	第15回ミュージック・アカデミー in みやざき 2022	3月19日～27日	講師／徳永二男、J. プーレ、漆原朝子、川崎雅夫、野口千代光、毛利伯郎、三上桂子、横山幸雄、他	目標値	582人
		全館		実績値	参加者 79

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>宮崎県立芸術劇場は、県民文化の拠点として、舞台芸術を中心に多様な文化活動を促進し、文化の香り高い地域づくりと心豊かな県民生活の創造に寄与することを目的に平成 5 年に設置された。平成 18 年度より当財団が指定管理業務を受託し、管理運営にあたっている。</p> <p>令和 3 年度の事業実施に際しては、「第四期（令和 3 年度～令和 7 年度）指定管理申請書」、及び「みやざき文化振興ビジョン（改訂版）」（平成 29 年 7 月）に基づき、“より親しみやすく”“裾野を広げる”を重点目標に掲げ、県民の「みる」「つくる」「つながる」の 3 つの拠点となることを目指した。</p> <ul style="list-style-type: none">●舞台芸術の拠点形成 「みる」<ul style="list-style-type: none">・ホールを最大限に活かした当劇場だからこそできる公演による、県内外からの来場者増・感受性豊かな子どもたちに良質な舞台芸術に触れる機会を提供●文化創造の拠点形成 「つくる」<ul style="list-style-type: none">・宮崎の地域資源、人材を活用した宮崎オリジナルの舞台公演を創造し、「宮崎の今」を発信・宮崎で活動している表現者に活躍の場を提供し、その活動を支援・子どもたちの想像力を育み、本県の未来を担う心豊かな人材を育成●地域文化の拠点形成 「つながる」<ul style="list-style-type: none">・県内各地域へ舞台芸術を届け、県内他施設と連携して地域の文化力向上を支援・県内の表現者を起用することによる舞台芸術への親近感の醸成 <p>令和 3 年度は、上記に基づきクラシック、JAZZ、パイプオルガン、演劇等の事業を計画した。また、親子向け公演、解説付きのレクチャコンサートといった企画により観客層の幅を広げることができた。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により下記公演が計画通りに実施できなかった。</p> <ul style="list-style-type: none">・「イザベル・ファウスト&イル・ジャルディーノ・アルモニコ」（海外オーケストラ） 中止・「おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part. 14」 次年度へ延期
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>令和 3 年度は、長引くコロナ禍の中で自粛せざるを得なかった事業活動の再開に向けての 1 年だった。各種団体の感染対策ガイドラインや先事例を参考にしながら、事業実施時の感染症対策の経験を積み重ね、感染症対策と事業実施の両立を図ることができた。</p> <p>これは、県内の文化芸術団体においても同様で、当劇場に対して事業実施時における感染症対策等についての相談や問い合わせがあるなど、県の文化振興の中核を担う当劇場が事業を実施していくことが、県内の文化芸術団体の活動再開を後押しする効果ももたらしていたといえる。</p> <p>県民の「コロナ禍における公演開催」に対する意識も徐々に変わり始めており、公演アンケートでは「このような状況だからこそ文化の大切さを実感することができた」という意見が多数見られた。感染症対策を講じてできる限り事業の実施・継続を図ってきたことの成果ととらえることができる。</p> <p>困難な状況において形成された「作り手・届け手」と「来場者・参加者」との関係性は、新型コロナウイルス感染症が収束した後にこそ、その効果が発揮されてくるものと考えている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

当劇場においては、(1) 公演来場者へのアンケート と (2) 事業担当者による事業終了後の自己分析の2つの方法により、事業効果を測定している。

(1) 公演来場者へのアンケート

令和2年度事業については、感染症対策のため紙媒体での来場者アンケートを停止していたが、令和3年度事業より再開している。集計の結果は下記の通り。

助成対象公演 アンケート集計											
	OZONE 60	おんがくのおもちゃ箱	ひなたのパロック (2公演平均)	ブルーノート	エルマーのぼうけん	オブセッション	火球 (5公演平均)	オルブラ (3公演平均)	全公演平均		
回収率	32.0%	5.5%	50.8%	48.3%	35.6%	52.1%	51.8%	56.1%	41.5%		
年齢	20代未満	3.1%	5.6%	17.4%	10.0%	39.2%	4.7%	2.7%	6.7%	8.7%	20代未満
	20代	1.5%	11.1%	2.0%	8.1%	0.5%	2.3%	8.5%	1.2%	4.9%	20代
	30代	4.1%	61.1%	2.7%	7.8%	17.1%	1.2%	20.9%	8.0%	15.0%	30代
	40代	15.4%	22.2%	11.5%	16.4%	29.1%	10.5%	15.8%	18.3%	16.7%	40代
	50代	27.2%	0.0%	18.2%	17.8%	4.5%	27.9%	21.7%	18.3%	18.5%	50代
	60代	29.2%	0.0%	20.3%	25.1%	5.5%	25.6%	21.9%	24.5%	20.6%	60代
	70代～	19.5%	0.0%	27.9%	13.1%	2.0%	24.4%	5.3%	21.7%	13.8%	70代～
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	2.1%	3.5%	3.2%	1.3%	1.8%	無回答
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.1%	100.0%	100.0%	100.0%		
来館回数	1～2回	38.8%	52.9%	29.9%	40.0%	55.0%	22.4%	41.8%	28.9%	37.6%	1～2回
	3～5回	34.4%	17.6%	29.0%	33.1%	15.7%	38.8%	18.8%	32.9%	26.0%	3～5回
	6～10回	10.4%	0.0%	13.7%	8.9%	5.1%	16.5%	6.3%	16.4%	10.0%	6～10回
	11回以上	10.4%	0.0%	23.9%	5.0%	2.2%	12.9%	4.7%	7.8%	8.4%	11回以上
	初めて	6.0%	23.5%	3.5%	10.6%	17.4%	4.7%	25.4%	12.1%	15.5%	初めて
	無回答	0.0%	6.0%	0.0%	2.4%	4.6%	4.7%	3.0%	1.9%	2.5%	無回答
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

事業計画時の目標 来場者の年齢構成：50代以下 50%以上 来館回数：初めて来館 10%以上
 事業実績 来場者の年齢構成：50代以下 63.8% 来館回数：初めて来館 15.5%

年齢構成、来館回数ともに目標を達成している。クラシック、JAZZ、パイプオルガン、演劇といったジャンルの広がりに加え、親子向け公演の実施等により、50歳代以下の観客を獲得することができた。

特に、「新 かぼちゃといもがら物語#6『火球』」においては、県北部の離島、島野浦が作品の舞台となっていたことから島野浦在住、出身の方々の来場が多く、そのことが来館回数「初めて」の割合の増につながっている。

(2) 事業担当者による自己分析

事業終了後に企画、広報の各担当者により、次の指標について取りまとめ、振り返りを行っている。

○ 公益性、共感性、普及性、実現性、計画性、自立性、先駆性

→ 各事業とも概ね「十分達成できた」「ほぼ達成できた」の自己評価となっているが、いくつかの事業において「自立性」で低い評価となっている。やはり、長引く新型コロナウイルスの影響によるものと思われる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和3年度は、長引くコロナ禍の中でも、ほぼ当初の計画通りの事業期間で事業を実施することができた。しかし、下記2公演においては、感染拡大防止のため実施時期を変更せざるを得なかった。

- おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part. 13 当初予定 5月23日(日) → 6月19日(土)へ延期
Part. 14 当初予定 9月12日(日) → R4年2月20日(日)
→R4年4月10日(日) へ再延期

創造型の公演事業である「新 かぼちゃといもがら物語#6『火球』」では、事業期間が他事業と比べて大きくなっているが、新作プロデュース公演であり約1ヶ月の稽古期間を確保したこと、これまで劇場に足を運んだことのない県民の来場を促すために著名俳優を起用したことがその要因である。その結果、宮崎県民からは見過ごされやすい地域社会の懐の深さが鋭く描き出された作品となり、多くの観客から満足と共感を得ることができた。

また、「ひなたのバロック」「パイプオルガン プロムナード・コンサート」においては、年間2~3回実施するシリーズ公演とすることで、観客の定着や鑑賞機会の拡大を図っている。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

●公演事業	【収入】	申請	16,215,000円	【支出】	申請	46,757,000円
		実績	9,770,020円		実績	33,033,838円

収入、支出ともに、申請時と実績値に大きな開きがあるが、これは新型コロナウイルス感染症の影響による、海外オーケストラ公演「イザベル・ファウスト&イル・ジャルディーノ・アルモニコ」の中止と、「おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part. 14」の次年度への延期によるものである。

この2公演以外は、概ね当初の計画通りに進んでいるが、感染が拡大する中で実施したいいくつかの公演では、客席数の制限等により収入が計画に届かなかったが、割引率の高い航空券の手配等により支出を圧縮することで収支バランスをとっている。

●人材養成事業	【収入】	申請	7,627,000円	【支出】	申請	15,328,000円
		実績	7,469,500円		実績	15,066,642円

助成対象の2公演とも、当初の計画通りに進めることができた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当劇場が実施する事業プログラムには、「県の芸術文化の拠点」としての高い芸術性が求められることから、劇場スタッフに加え、長年にわたり宮崎県の音楽界を牽引してきた桐原直子氏に音楽アウトリーチ事業アドバイザーを、宮崎出身で東京を拠点に演出家として活躍する立山ひろみ氏に演劇ディレクターを委嘱し、より専門的な見地から企画、運営に当たっての指導、助言をもらっている。

また、NHK エンタープライズと事業アドバイザー契約を結んでおり、ジャンルを超えた幅広い見地から、高い芸術性と県民からの親しみやすさを両立させるための企画への助言等を得ている。

当劇場は「コンサートホール」「演劇ホール」「イベントホール」の3つのホールを有し、それぞれのホール特性を最大限に活かした事業を行っている。中でもコンサートホールの音響性能の良さは、国内外の第一線の音楽家からも高い評価を受けており、迫力あるオーケストラから繊細な表現の室内楽の公演まで、優れた鑑賞環境の中で提供することができている。

また、コンサートホールに設置された国産最大級を誇るパイプオルガンを活用するため、オルガン・チェンバロ奏者で東京藝術大学教授の大塚直哉氏にオルガン事業アドバイザーを委嘱し、事業の企画、運営についての助言をもらっている。

以下、令和3年度に実施した事業の内、特に創造的、独創的と認められる事業例

(1) 公演事業

○ シリーズ「ひなたのバロック」

現在、その様式や解釈、演奏方法等において、盛んな史的考証や新たなアプローチが行われている“古楽”と通称される音楽に接することは、単なる演奏の鑑賞だけでなく、現在、日常的に耳にする多彩な音楽ジャンルの根幹を発達させてきた、西洋の国々の歴史や文化への理解と関心につながる側面を含んでいる。本事業では、当劇場のオルガン（古楽）事業アドバイザー大塚直哉の監修の下、劇場が所有するパイプオルガン、チェンバロ等の活用と併せて、バロック音楽が持つ多様な文化的感興を引き出すプログラムを企画した。

#1「美味しい音楽と絵画のひととき」～フェルメールの描いた古きオランダに耳をすませて～

初回は、名画の中に描かれた「料理」をリアルに再現したレシピなどで話題のキュレーターの林綾野をゲストに迎え、オランダ絵画の視点から音楽にアプローチする楽しみ、面白さの発見を企図した。

#2 あの「ハレルヤ」のヘンデルが実は・・・!?

2 回目は、バロック音楽の代表的な作曲家ヘンデルをテーマに、ヘンデル研究家の三ヶ尻正をゲストに迎え、当時の政治状況の話も聞きながら、ヘンデルの室内楽、オペラアリアを演奏。

○ 「新 かぼちゃといもがら物語」#6『火球』

地域社会に凝縮されている社会課題を背景に、宮崎に生きる人々の営みを描いた演劇の自主創作公演。土田英生氏、長田育恵氏、戌井昭人氏、シライケイタ氏に続く6作品目は、第18回鶴屋南北戯曲賞、第70回読売文学賞戯曲・シナリオ賞など、近年数々の戯曲賞を受賞し高評価と注目を集める劇作家、桑原裕子氏を脚本に迎えた。

宮崎県の北部に位置する離島・島野浦を舞台に、島で育った幼なじみ5人の物語は多くの観客の共感を得ることができた。

また、宮崎を舞台とし、宮崎の方言で演じられるこのシリーズは、作品の質の高さだけでなく、県民にとって舞台芸術をより身近に感じてもらえる効果が高い。このことは、ほかの事業と比べ初めて劇場に来館した人の割合が高いというアンケートの結果（(2) 有効性参照）からもうかがえる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【公演事業】

宮崎県では、「みやざき文化振興ビジョン（改訂版）」（平成29年2月）において、本県の文化振興のための大きな施策の一つに「県民だれもが文化に親しむ機会の充実」を掲げている。

令和3年度、当劇場では、クラシック、JAZZ、パイプオルガン、演劇等の事業により、県民が多様なジャンルの舞台芸術に触れるきっかけを提供することで、上記施策の実現を目指した。

令和3年度7月～10月にかけて本県で「国文祭・芸文祭みやざき2020」が開催されたが、大会終了後も当劇場が実施する事業により、県民の文化に対する興味・関心を持続させ、発展させていくことが、当劇場の責務と考えている。

また、「おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part.13」「新 かぼちゃといもがら物語 #6『火球』」「ひなたのバロク#2」においては、県内の演奏家、俳優を起用しているが、このことが県民とコンサートや演劇との間の距離感を縮めることにも作用しており、観客増も図られている。

【人材養成事業】

「ミュージック・アカデミー in みやざき」においては、国内外で活躍する若手演奏家を輩出している。コンクールでの受賞者も多く、直近の受賞歴は、第90回日本音楽コンクール（2021年）ヴァイオリン部門2位。加えて宮崎国際音楽祭においては、本講習会を修了し、現在、国内外で活動の場を築きつつある若手演奏家をソリストやオーケストラのメンバーとして登用し、国内外に宮崎が育てた音楽文化を発信することで地域への還元を行っている。

「オルガン・チェンバロ講習会」は、平成5年の劇場開館以来、形を変えながら継続してきているが、修了者の中からは、個人で楽器を購入し地域の児童等にレッスンをを行う者、県内音楽団体の演奏会等での演奏を依頼される者、独自にグループを組み定期的に演奏会を開催する者など、劇場外においても活動の広がりが見られるようになってきている。また、近年では、本講習会をきっかけに音楽大学へ進学し、演奏家として活動する実績も生まれるなど、地域の文化芸術の振興や人材の育成につながっている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

宮崎県立芸術劇場は、平成5年に「県民文化の拠点として、舞台芸術を中心に県民の多様な文化活動を促進し、文化の香り高い地域づくりと心豊かな県民生活の創造 に寄与すること」を目的に設置され、当財団は設置当初よりその運営を委託されている。（平成18年より指定管理者制度導入）

(1) 妥当性 において記したとおり、現在は、第四期指定管理事業計画の「より親しみやすく」「裾野を広げる」と、みやざき文化振興ビジョンが掲げる「文化で築く みやざきの新しいゆたかさの実現」のための事業活動を展開している。

更に、(2) 有効性 にも記したとおり、事業終了後は、公益性、共感性、普及性、実現性、計画性、自立性、先駆性の7項目についての自己評価を行っているが、その結果を受け、企画内容、広報戦略、価格設定等改善すべき事項については、次年度に反映させていくことで、事業の目的の達成に向けた活動を持続的に発展させている。

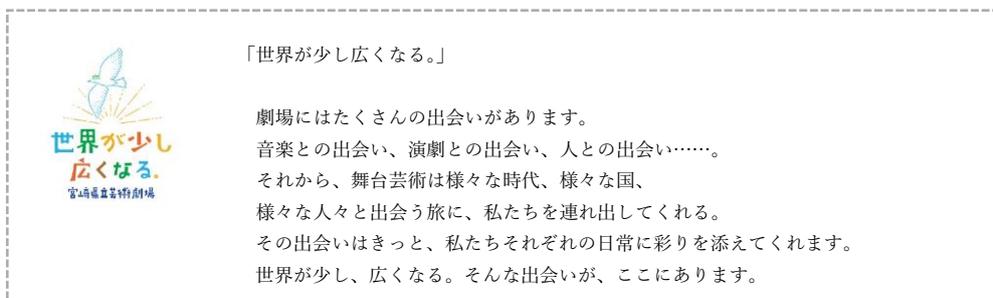
上記事業運営を確実なものとするために、人事戦略面では「専門スタッフの確保育成、総合職の育成」を、財政面では「自主財源の確保および効率的な管理運営」を、管理運営面では「安全管理、危機管理の徹底」を運営の基盤としている。

特に財政面では、令和3年度決算において、当劇場の運営費（管理費、人件費等含む）の約65%を県からの指定管理料が占めており、残り35%が入場料収入、補助金収入、協賛金等収入となっている。このように組織運営の持続的発展のためには自主財源の確保＝補助金・助成金の獲得が必要不可欠であり、今後も公的・私的の各種補助金、助成金の獲得に努めていくこととしている。

●劇場キャッチフレーズの制定

令和3年度からの指定管理第四期が始まるのにあわせて、劇場が県民にとってより身近で、親しまれるものであるとともに、“世界が少し広がる” ような出会いがたくさん訪れる、そんな存在でありたいと願い、劇場キャッチフレーズを制定した。

劇場ホームページに加え、各事業のチラシにも掲載していくことで、県民への周知を図っている。



●各方面とのネットワーク

当劇場は、宮崎県の中核をなす文化施設として宮崎県公立文化施設協議会の会長館を務め、全国公立文化施設協会、劇場・音楽等連絡協議会等に参加している。また、全国規模の巡回公演を実施する際には、各実施館との情報交換を行うなど、劇場・音楽堂等間のネットワーク形成・強化に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の感染対策や大規模改修等の情報収集時において、これまでに築いてきたネットワークが有効に機能する機会が多く、今後の劇場運営の持続性を高めるためにもこうしたネットワークの維持やさらなる活用を図っていきたい。